

街路樹

「教師力upの素」～特別支援部会～



「電話相談より」教育相談部

特別支援の児童生徒の力を最大限に発揮させ、さらに伸ばすために、授業の展開や支援について「教師力upの素シート」～特別支援教育編～をもとに、提供いただいた授業でまとめました。

【提供いただいた授業】

- ① 中学校保健体育「ドッチビーを楽しもう」
- ② 小学校生活単元「とろとろえのぐであそぼう」
- ③ 中学校生活単元「小物入れを作り、おうちの方にプレゼントしよう」
- ④ 小学校算数「1億より大きい数を調べよう」動画

【授業で実践している内容】

○ 展開の工夫

- ・興味・関心がもてる導入の工夫
- ・達成感と次への期待感がもてるまとめ

○ 理解や思考を促す配慮

- ・個の理解度に応じ、見通しをもたせる働きかけ
- ・「見えにくさ、とらえにくさ・こだわり」等の認知特性に対しての手だて

○ 説明・示範・発問・応答・賞賛など

- ・肯定的な言葉かけ(リフレーミング)
- ・子どもの発言・つぶやきをとらえた丁寧な応答

○ 教材・教具の活用

- ・実態に応じた教材・教具の活用(文字の絵等の認知・色・大きさなどの視覚・音声化などの聴覚・手触りなどの触覚・安全性の配慮)



これらの実践内容は、特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍する支援の必要な児童生徒を含めた授業づくりに大いに参考となるものです。つまり、ユニバーサルデザインを取り入れた授業につながるヒントになります。

ぜひご覧になり、ご活用ください。

教育相談は、母親からのものが殆どでその内容は、不登校・友人関係・学力不振・子育てなど様々ですが、話の内容をよく聴いていると、子どものある現象面だけを捉え、心配してお電話をくださる方が多いように感じます。

子ども達は、ある日突然不登校等になるわけではなく、子どもの発信するSOS(前兆)をいかに早くキャッチするかが大切だと言われます。



しかし、両親が共に働いている家庭が多く、我が子一人ひとりと親密に接する時間が取れないのも現状です。

子どもは、両親、特に母親からの愛情を受けなければならない時期に受けないと、コミュニケーション能力や忍耐力の欠如、母子分離不安などが原因となり、学校生活に適應できず、不登校傾向になってしまうことが多く見られます。

各々の家庭環境(養育歴・生育歴)は違いますが子ども一人ひとりと、受容的態度・共感的理解でじっくりと不安や悩みを受けとめることが大切であり、スクールカウンセラー活用も有効です。

一人で抱え込まず、情報の共有化と連携を図り、子どもの心に寄り添っていききたいものです。



道徳教育

彼女との初めてのデート。海岸線をドライブし、お昼は浜辺で彼女特製のお弁当を食べます。ところが、卵焼きを一口食べたとき、彼は一瞬、「うっ」と止まってしまいます。彼女はどうか塩加減を間違えたらしく、とても二口目に進めるような状況ではありません。目の前には、にっこりとほほえみ、彼からの一言を待っている彼女の顔が。さあ、あなたがこの彼の立場なら、彼女に何と言いますか。①「いやあ、しょっぱくてとても食べた代物じゃないよ!」②「ううん、なかなかパンチのある味付けだね。僕にはちょっと塩が強めかな。」③「この卵焼き、おいしいねえ。」…おそらく①を選ぶ人はいないでしょう。②と③は、もしかすると意見が分かれるかもしれませんが。それは、これまでの経験や自身の性格が大きく関わってくるからだといえます。では、小学校低学年の子ならどうでしょう。もしかすると①を選び「だって嘘はついちゃいけないんだよ!」と言うかもしれません。

今回の教科化にあたり、道徳科でおさえるべき内容項目の見直し・整理が図られました。小中の9年間を見通して関連的・発展的に内容項目をとらえ、指導していくことで、児童生徒が主体的な判断の下に行動できるようにすることを目指しています。

冒頭の話の場合、道徳科の内容項目「正直、誠実」だけではなく、「親切・思いやり」や「相互理解・寛容」という、人との関わりに関する項目も併せながら考える場面であるといえます。「確かに嘘をつくことはいけないことだけれど、心を込めてお弁当を作ってくれた相手の気持ちを考えて、何と言ったらよいか考えることが大事だね」となるわけです。恋の行方に限らず、子どもを取り巻く社会全体が予測困難な時代といわれる今、子どもたちがその予測できない変化に受け身で対処するのではなく、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにするのだという意識で、道徳教育を進めていきましょう。

(赤堀博行氏 講義「心を育てる道徳教育の具体的展開」より)